

# 自動車内の熱中症

**車内置き去り事故1時間で車内温度が約15℃上昇!**

6月の晴れた日に、外気温は30℃以下でした。しかし、車内に1時間放置された兄妹が重症の熱射病になってしまいました。当時1歳11か月のお兄ちゃんはけいれんや意識障害から状態が悪化、6か月後に亡くなりました。6か月の妹は重度の神経後遺症が残ってしまったという事故でした。

下の表を見てもわかるように、車内の温度は真夏でなくても想像以上に高温になり、熱射病の危険が高まります。気温が17℃でも死亡した例が報告されています。

測定時刻	車外気温	運転席後部(兄) 気温	助手席後部(妹) 気温
10:00	28.2℃	31.6℃	32.5℃
11:00	28.8℃	42.4℃	41.0℃
11:47	28.0℃	47.4℃	46.0℃
12:00	29.5℃	47.4℃	46.3℃

栗原伸芳 他 小児科臨床(2002)より

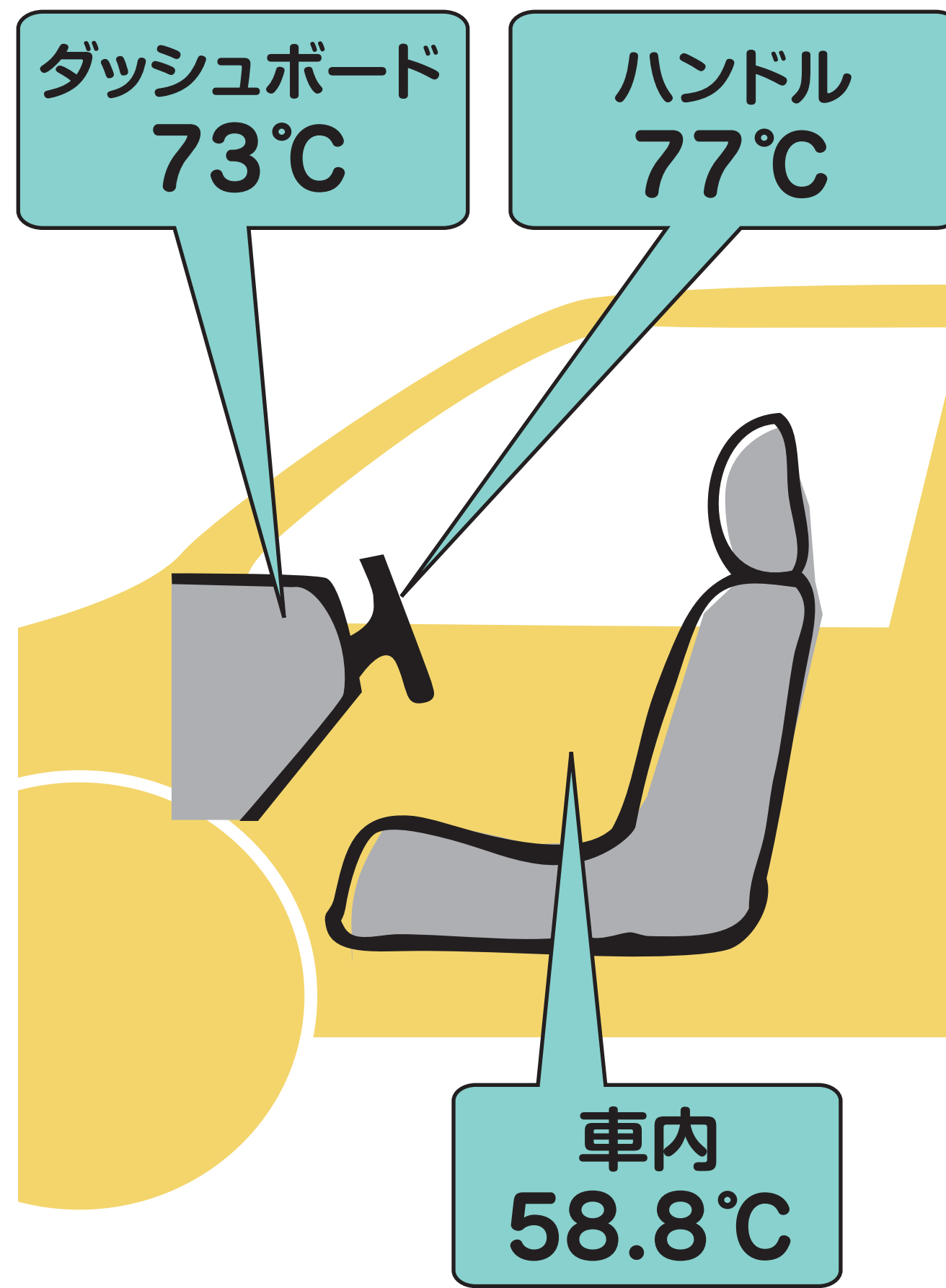


**炎天下の閉めきった  
車内の温度はなんと58℃**

JAFユーザーテストより「車内温度」気温32℃で3時間放置

## 気をつけよう!!ベビーカーのお出かけ!!

乳幼児は、体温調節の機能がまだ未熟です。暑い時期はすぐに体温が上がって汗をかき脱水症状などを起こす事があります。炎天下夏の昼間、買い物などでベビーカーに乗っている赤ちゃんは、大人より地面に近くアスファルトやコンクリートの放射熱で気温よりも高い温度にさらされます。炎天下でのお出かけは、こまめに日陰で休憩して水分補給に気をつけましょう。



## 注意!

大人と比べて、赤ちゃんは体温調節機能が未熟なために、汗を出す機能や腎機能も大人程働きません。脱水症状をおこしやすく外界、環境の温度の変化に対応しきれません。炎天下の車内に置き去りにされた場合熱射病をおこし、直腸温が42度を超えると臓器不全をおこして死亡する恐れがあります。赤ちゃんと大人では、暑さの感じ方や体への影響が違うことを忘れないでください。そしてわずかの時間でも決して赤ちゃんを車内に置き去りにしないようにしましょう。

## 熱中症の 対処方法

すぐに木陰や冷房の効いた場所に移し、ぬれたタオルなどで体をおおって、うちわであおぎ体温を下げます。吐き気がなければ水やイオン飲料などを少しずつ飲ませてあげます。けいれんや意識障害があったらすぐに救急車を呼びます。